

2020 年 1 月 17 日

入学検査の実施ミスについて

名古屋大学教育学部附属中学校
校長 中嶋哲彦

2020 年 1 月 11 日と同 12 日に実施した 2020 年度名古屋大学教育学部附属中学校入学検査中、下記のとおり、検査Ⅰ（第一部）の実施にミスが生じ、同検査を入学者選抜の資料として用いられない事態となりましたので、ミスの内容及び対応についてお知らせいたします。

受検者及びご家族の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。この事実を厳粛に受け止め深く反省するとともに、今後このようなことがないよう再発防止に努めてまいります。

記

1 検査の内容と配点

1 月 11 日	9:30～10:10	検査Ⅰ（第一部）[小学校の学習内容に関する総合力]	50 点
	10:30～11:10	検査Ⅰ（第二部）[小学校の学習内容に関する総合力]	50 点
	11:30～12:10	検査Ⅱ [作文]	30 点
1 月 12 日	女子：午前	検査Ⅲ [面接]	} 30 点
	男子：午後	検査Ⅲ [面接]	

ただし、合否判定には上記のほか、受検者の在籍校から送られる調査書を上記と同等の比重で合否判定資料として用います。

2 募集人員

80 名（男子 40 名・女子 40 名）

3 ミスが生じた検査

検査Ⅰ（第一部）

4 当該検査の実施日

2020 年 1 月 11 日（土）

5 受検者数

617 名

6 ミスの内容

検査Ⅰ（第一部）において、校内放送で「検査の最初に放送による問題があります。」とアナウンスするとともに、検査用紙の冒頭に「検査開始後、すぐに [1]、[2] に関する放送が流れます。」と記載しているにもかかわらず、放送担当者の過誤により、5 分 15 秒間流れる予定の「放送による問題」の音声ですべての検査室において放送されませんでした。このため、検査本部は、各検査室の状況を把握するため、各検査室を巡回して監督者に受検者の状況を確認しました。その結果、検査本部は、14 室ある検査室のうち 2 室においては、放送が流れるまでの 5 分間、受検者が設問の解答に取

り掛かっていない状態にあったと判断し、当該 2 室の監督者に検査時間を 5 分間延長するよう指示しました。

しかし、検査終了後、検査本部が各検査室の監督者に再度確認したところ、①当該 2 室でも、他の検査室と同様、受検者の多くは他の設問の解答に取り掛かっており、当該 2 室について検査時間を 5 分間延長する指示は誤りであったこと、他方、②上記 2 室以外の検査室においても音声放送されなかった 5 分間に、監督者から受検者に対して指示を出す手順になっていなかったため、「放送による問題」以外の設問の解答に取り掛かっていた受検者と、数分間にわたって解答に取り掛かっていない受検者がいたこと、がわかりました。

これにより、解答時間について公平性を確保できず、検査Ⅰ（第一部）を合否判定に使用できない事態を生み出してしまいました。

7 対応

公平性を確保するため、検査Ⅰ（第一部）は判定資料から除外します。しかし、検査Ⅰ（第一部）と検査Ⅰ（第二部）は、受検者の負担に配慮して同質の設問について、休憩を挟んで前半・後半に区分して実施しているものであり、特定の教科に関する設問ではなく、小学校の学習内容に関する総合力を問う問題であり、検査Ⅰ（第二部）の得点を用いれば小学校の学習内容に関する総合力を確かめられると判断し、今回は検査Ⅰ（第二部）の得点を 2 倍にして合否判定に使用しました。

なお、合否判定は通常、検査Ⅰ（第一部、第二部）、検査Ⅱ及び検査Ⅲの得点と、在籍校から送られた調査書に基づいて総合的に判定しています。

8 再発防止策

「放送による問題」の実施に関して重大なミスが起きてしまいました。今後は、起こりうる事態を綿密に精査して検査実施マニュアルを整備するとともに、人員の配置を見直してミスが起きないよう実施方法を再検討してまいります。このため、校長を委員長とする再発防止委員会を来週 1 月 20 日に設置し、1 月 29 日実施予定の名古屋大学教育学部附属高等学校の入学者選抜においてミスが生じないよう対策するとともに、今年度中を目処に検査実施マニュアルを整備・改善します。

以上

本件に関する問い合わせ先

名古屋大学教育学部附属中学校 副校長（佐藤）

電話 052-789-2680